

平成25年度北海道小学校長会地区活性化支援事業【実践事例レポート】

- 1 報告地区：日高地区
- 2 事例報告学校名：えりも町立笛舞小学校
- 3 報告者職・氏名：校長 田 中 淳 一
- 4 キーワード：学力向上



はじめに

○地域と学校の概要

地域は、日高東端えりも町の西側に位置し、様似町に隣接しています。豊かな太平洋の漁場が広がる漁業中心の集落で、1年を通して漁業活動が営まれています。大半の家庭は、コンブ漁が主たる収入源となっています。

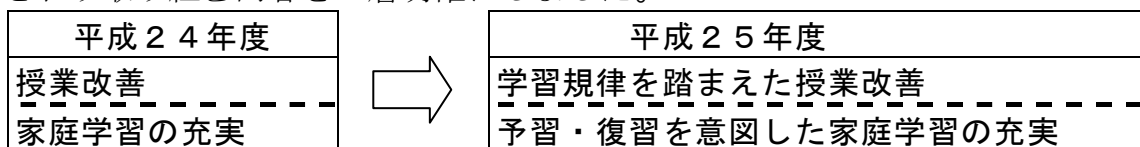
また、地域の高齢化は進んでいますが、漁業に従事する若い後継者がいるため、児童数は増加傾向にあり、平成26年度から1学級増の予定です（現在3学級27名）。

○児童の実態（学力に関して）

算数においては、平成22年度の標準学力検査では、全ての観点で全国平均を下回りました。そのため、下記で述べる学校改善プランの共有化と具体化を図った結果、平成24年度では、全ての観点で全国平均を上回るようになりました。

1 学校改善プランにおける10の策（具体的な数値目標の設定）

学校経営においては、前年度までは重点課題を「確かな学力の育成」とし、「授業改善」と「家庭学習の充実」に特化して取り組んできましたが、今年度は、以下のとおり取り組む内容を一層明確にしました。



前年度までは学級ごとに指導していた学習規律を10項目に絞り込み、全学級で共通に取り組みました。家庭学習では復習中心の取組で、学習の手引きを作成した結果、予習にも力を入れるようになり成果を上げているところです。

また、学校改善プランに具体的な数値目標を設定することにより、教職員が明確な目的意識をもつことができるようになりました。さらに、10項目の具体的な取組に対する「対象教科名」や「具体化の中核」を明らかにすることにより、役割が一層明確になりました。この10の具体的な取組（P・D）に対する評価（C）を前期・後期に1回ずつ設定し、改善（D）に生かしています。

【具体的な数値目標設定例】

- ① それぞれの「学習規律」に対して、最低80%以上の達成率を目指すために、達成状況を毎月数値化し、個に応じた改善を図っています。
- ② 「10分×学年」の家庭学習の取組に対して、最低80%以上の子どもの達成率を目指すために、達成状況を年に2回数値化し、個に応じた改善を図っています。



学校改善プランの一部

重点課題 「確かな学力の育成（学習規律を踏まえた授業改善と予習・復習を意図した家庭学習の充実）」		
～子どもの姿で結果を出す（A問題80%以上、B問題60%以上）～		
学校経営で示した10項目の具体的な取組の一部	対象教科名	具体化の中核
①分析結果を踏まえた学校改善プランの具体化	国語・算数	教 務
②全道へき地複式教育研究会日高大会を意図した研修理論とリンクした授業実践	算数	研 修
③学習規律系統表を踏まえた授業改善	国語・算数	研 修

2 最大の効果を上げている仮説検証型の研究

学力向上の10の策について、数値目標を設定し、教職員で共有化し、さらに具体化することにより、児童の学力の向上は確かなものになってきています。その中でも最大の効果を上げていると考えている上記②の「全道へき地複式教育研究会 日高大会を意図した研究理論とリンクした授業実践」について述べます。

最大の課題

平成22年度 算数の全ての観点で全国平均を下回った。
特に「数学的な考え方」が全国平均を大きく下回った。

⇓ この課題に対して

研究に関する3つの共通認識

①確かな理論の構築 ②理論と整合した日常実践 ③児童の確かな変容

- ①理論の構築のために「知的好奇心を喚起する学習課題を提示する」、さらに「課題を自己解決するための見通しをもたせ、考える力を育成し、それを発表しあうことにより一層理解を深める」という二つの大きな研究内容（仮説の設定）を明確にしました。
- ②日常実践を推進した結果、子どもたちは、課題を自己解決するためにノートに自分の考えを書くことができるようになりました。
- ③自分の考えを発表するために、要点をホワイトボードにタイル・図・数直線・線分図・テープ図などを使って思い思いの方法でかき表し、発表に結び付け、交流する授業スタイルができてきました。



おわりに

学力向上を含め、学校経営においては、校長のビジョンを教職員と共有化し、さらに教職員が具体化し、最終的に子どもの姿で結果をだすことがとても重要だと考えています。特に、学力向上に関しては、マネジメントサイクルを踏まえ、具体的な数値目標を設定し、教職員による具体化の役割を明確にしながら、意図的・計画的・継続的そして組織的に取り組むことにより、児童が変容することを実感しました。今後も「教育の機会均等」の理念を根拠に、成果と課題を明らかにし、子どもたちの将来の幸せのために確かな学力の向上を図りたいと考えています。